



Metals Focus – Precious Metals Weekly

貴金属ウィークリー 第24号 2023年5月6日

ゴールド

今週木曜日の FOMC による金利政策決定を前に2週間半ぶりの高値、2026ドルに

シルバー

Fresnillo の2023年第1四半期のシルバー生産は前年比でマイナス 1% にとどまり 407.4 トン

プラチナ

イムプラッツの2023年第1四半期の精錬 PGM生産は溶鉱炉のメンテナンスで前年比1割減

パラジウム

ユミコアの2023年第1四半期中の触媒部門は前年より好調と報告

インドのシルバー市場、法規制改革が 需要喚起への道

我々メタルズフォーカスのインドチームは、ジャイプールで今回初めて開催された「India Silver Conference (ISC)」に参加してきた。インドは世界最大のシルバー消費国の一つであるが、インドのシルバー市場に焦点を当てた会議というのは今まで存在しなかった。ISC にはインド国内外からシルバーの主要プレイヤーらが参加し、インドのシルバーサプライチェーンの動向、インドのシルバー産業の課題に対する理解を深める絶好の機会となった。

会議ではシルバーの工業需要、シルバーを使う新しい技術、そして輸出の促進及び国内のシルバー需要の喚起を含めた幅広い課題が議論された。

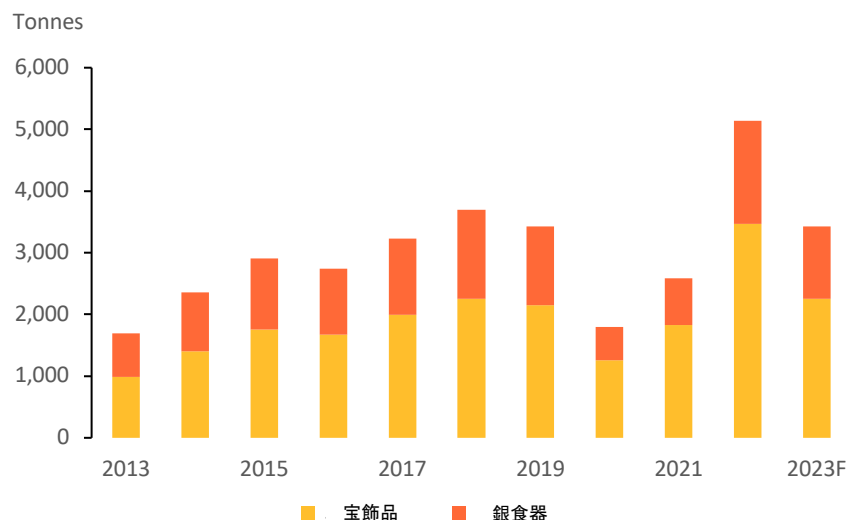
議論の一つに、インドのシルバー宝飾品・インゴット・コインにも、ゴールド市場発展に貢献した品位証明刻印の強制的な認証化を導入すべきだと言いう声があった。インドでは標準規格(BIS)の管轄下となる品位証明刻印は、2005年にシルバー商品に導入されたものの義務化されなかった経緯がある。対照的に、2021年からゴールド商品に対する品位証明刻印制度は義務化され、消費者の知識向上に大いに貢献して商品全般の純度を高める効果をもたらした。

シルバーに関する我々の調査によれば、従来のシルバー宝飾品の純度は平均40%~50%と低く、昨今は大手チェーン店が自主的に品位証明刻印を初めたことで、スターリングシルバー製品や銀食器の需要増につながっているものの、この傾向は都市部の大型店に限られている。そのため多くのシルバー製品の平均的な純度はいまだに70%~80%にとどまっている。ゴールドと同様にシルバー製品の品位証明刻印を義務化すれば、消費者の信頼確保につながるとともに、シルバー製品全般の純度を高め、ひいてはそれがインドのシルバー需要を押し上げることになるだろう。

そのほかに今回の会議で話題となったのは、シルバー商品の製造業者に対するシルバーローンの導入についてである。インドではすでに銀行が宝飾製造業者に最大180日までゴールドを貸し出すゴールドローンが盛んで、これにより製造業者は運転資本を抑えることが可能となっている。同様の制度がシルバー業界にも導入されれば、製造業者は特にルピー建のシルバー価格が過去最高に近い高値となっている時でもデザイン開発など R&D に資金を回すことができるようになり、金銭的な負担を減らすことができるという意味で非常に効果的である。我々がいくつかの銀行と話した限りでは、銀行側はメタルを貸し出す準備はあるものの、インド準備銀行がそれを許可するという明確な法制度がないということだった。

上記以外にも同会議では、政府が検討すべき税制上の二つの課題が取り上げられた。一つは宝飾品と銀食器業界に関するもので、議論で明らかになったのは、関税払い戻しという形で税控除を受けるはずの輸出業者は実際にはほとんど恩恵を受けていないという事実だった。関税払い戻しスキームは輸出業者が輸出用宝飾品や銀食器をインド国内で製造した場合、その製品の原材料であるシルバーを輸入したときに支払った関税（現在は15%）の還付を受けることができるというもの。しかし還付は通常5%~10%にとどまり、輸出業者の税控除分は少ないのである。このような状況がインドの輸出の成長に影響している。したがって、法的介入によって関税払い戻しスキームを合理的なものに変更すれば、輸出を後押しする可能性あるという議論だ。

インドの銀食器とシルバー宝飾品需要

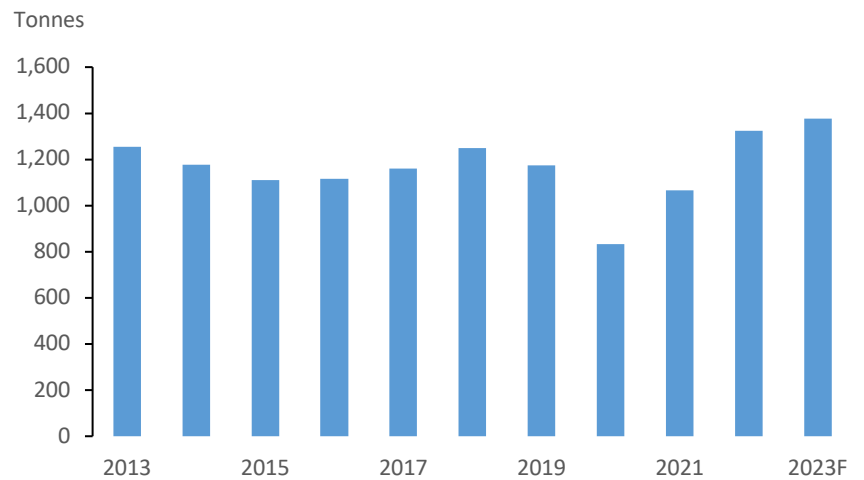


資料: メタルズフォーカス

二つ目の税制議論は工業分野、特に電子材産業にとって重要な部品である銀接点に関するものだった。これはコネクタ・リレー（継電器）・スイッチなど高い誘電率と耐久性が必要とされる部品を含む。現在最終商品である銀接点の輸入関税は7%、シルバーの輸入関税は15%となっており、この逆転した税制度のおかげでインドの電気接点産業の国際的な競争力は強いとは言えない。電気接点の製造は昨年から増えており、国内需要とともに輸出需要も高く、さらに中国からインドに生産拠点を移転する企業もある中で、シルバーの輸入関税が引き下げられるか、電気接点の輸入関税が引き上げられれば、さらなる需要増に貢献することになるだろう。

今回の会議全体の雰囲気は楽観的なものであった。インドのシルバー需要はこの10年で伸びているが、上記のような課題が解決すれば、インドのシルバーサプライチェーンの支えとなり、国内需要及び輸出需要のさらなる成長にとってプラスになるだろう。

インドの工業のシルバー需要



資料：メタルズフォーカス